

- BMWジャパン、「5シリーズ」等計25車種のエンジンのブローバイヒーターに不具合があるとしてリコール 05年10月27日～11年12月20日に生産した7万0978台
エンジンのブローバイガス還元装置において、ブローバイガスヒーターの成形加工が不適切な為、外装樹脂にクラックが発生するものがある。その為、クラックに水分が浸入すると、クラックが拡大し樹脂内部にある電熱線ヒーターの回路がショートして警告灯が点灯し、そのままの使用を続けると、ヒーターが異常発熱して外装が溶け、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- BMWジャパン、「X3 xDrive 20d」の燃料ポンプとリアスポイラーに不具合があるとしてリコール 17年7月13日～18年1月23日に生産した1215台
燃料タンク右側と左側の残量差を調整する燃料ポンプについては、製造工程で燃料供給バルブを損傷させた為、作動不良を起こすものがある。その為、燃料がタンク内に残っていてもエンジンが供給できず、最悪の場合、エンストする恐れがある。リアスポイラーについては、製造工程管理が不適切な為、リアスポイラー取付けボルトが装着されていないものがある。その為、走行中リアスポイラーから異音(風きり音)が発生し、最悪の場合、高速度で走行するとリアスポイラーが脱落する恐れがある。
- FCAジャパン、フィアット「500J」の非常信号用具に係わるラベルの記載が不十分であるとしてリコール 18年1月23日～4月10日に輸入した160台
グローブボックス内に非常信号用具を取り付けた車両にて、コーションラベルの記載内容に関する確認が不十分な為、非常信号用具の格納場所に係わる記載がされておらず、道路運送車両法の保安基準に適合しない。
- BMWジャパン、MINI「クーパーDクラブマン5シリーズ」等計19車種のヘッドライトコントロールユニットに不具合があるとしてリコール 17年8月16日～11月2日に生産した1777台
ヘッドライトコントロールユニットの回路基板の抵抗値が不適切な為、エンジン始動時等の電気負荷が高くなる状態でヘッドライトが点灯していると、回路基板が損傷し、ヘッドライトが点灯しなくなる恐れがある。
- アストンマーティン、「DB11」のステアリング内の静電気放電用配線に不具合があるとしてリコール 16年10月26日～17年10月19日に生産した217台
ステアリングコラムモジュール内の静電気放電用配線の組み付けが不適切な為、ハンドル操作を行った際に可動範囲を超え、配線が断線するものがある。また、ステアリングコラムモジュールとカバーとの隙間の設定が不適切な為、異物が侵入し、静電気放電用配線が断線するものがある。その為、エアバッグの警告灯が点灯し、最悪の場合、帯電した静電気が放電されず意図せずエアバッグが展開する恐れがある。
- スズキ、4ドアセダン「キザシ」のCVTコントローラに不具合があるとしてリコール 12年7月19日～15年12月18日に生産した2390台
キザシは2009年から2015年までスズキが生産していたグローバル向けフラッグシップモデル。2.4リットル4気筒エンジンを搭載する4ドアセダンで、日本国内では覆面パトカーに数多く導入されたことでも知られる。今回のリコールは、内部基板に装着している抵抗の製造管理が不適切な為、接合部に亀裂が生じて、抵抗値が高くなることもある。その為、CVTの油圧制御が不良となり、走行中に車速が低下し、加速が困難になる恐れがある。
- ジャガー・ランドローバー・ジャパン、「E-PACE」等計14車種の燃料レールに不具合があるとしてリコール 17年6月15日～18年4月18日に輸入した578台
燃料レールの製造工程において、燃料レールエンドキャップのロウ付け加工が不適切な為、ロウの割れが発生するものがある。その為、当該部位から燃料がにじみ、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- トヨタ自動車、「アルファード」「ヴェルファイア」の電動パーキングブレーキに不具合があるとしてリコール 14年12月8日～18年2月26日に生産した3万5213台
電動パーキングブレーキにおいて、制御用コンピュータ電源回路の異常検出プログラムが不適切な為、バッテリーが劣化しているとアイドリングストップから再始動する際の電圧低下を異常と判定することがある。その為、警告灯が点灯して、電動パーキングブレーキが作動しない恐れがある。
- トヨタ自動車、「シエンタ」・レクサス「RX200t」「RX450h」のエアバッグセンサに不具合があるとしてリコール 15年9月12日～10月29日に生産した1239台
エアバッグ制御システムにおいて、加速度センサ内ICチップの製造条件が不適切な為、IC内部で断線することがある。その為、エアバッグ警告灯が点灯し、エアバッグが正常に作動できない恐れがある。
- 三菱ふそうトラック・バス、大・中型バス「エアロミディ」等計6車種のセンターメンバーに不具合があるとしてリコール 93年9月20日～17年8月7日に生産した1万4780台
前輪独立懸架方式の大・中型バスにおいて、センターメンバーの製造が不適切な為、センターメンバー内部に融雪剤等を含んだ水が浸入し、ロアアーム取付部付近が腐食することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、腐食が進行し、センターメンバーが破損して、最悪の場合、ロアアームが脱落して操舵不能となる恐れがある。今回の案件は、17年2月14日付けで暫定措置のリコール届出を行ったものだが、恒久措置が決定したことと、93年9月20日～07年8月28日としていた対象車両以降に生産した車両の一部でも不具合が発生する恐れがあることが判明したため、対象範囲を拡大して再度対策を行うもの。
- アウディジャパン、「A4」等計8車種のスピーカートリムに不具合があるとしてリコール 15年12月16日～17年9月5日に輸入した1308台
ドアに装着されているスピーカートリムのネームプレートについて、粘着テープの接着力が不十分な為、ネームプレートが剥離するものがある。ネームプレートは先端部分が鋭利となっており、乗員が負傷する恐れがある。
- ホンダ、「ステップワゴン」「フリード」「フリード+」のブレーキマスターシリンダーに不具合があるとしてリコール 15年4月1日～18年2月19日に生産した20万9060台
ブレーキマスタシリンダーのセカンダリカップの材質と形状が不適切な為、カップがリザーバタンクホースからブレーキ液中に溶け出した可塑剤により膨潤し、また、走行中のエンジンの熱で膨張すると、変形することがある。その為、シール性能が低下して、ブレーキペダルをゆっくり踏むとシール部からブレーキ液が漏れ、最悪の場合、制動距離が長くなる恐れがある。
- 日野自動車、中型トラック「日野レンジャー」のスペアタイヤキャリアに不具合があるとしてリコール 11年7月11日～18年5月25日に生産した2万7003台
横滑り式スペアタイヤキャリアにおいて、吊り坂の形状が不適切な為、アルミホイール付タイヤを固定すると、走行中の振動でスペアタイヤが回転することがある。その為、キャリアのチェーン部が振り切れて、スペアタイヤが脱落する恐れがある。又、巻き取り機構の溶接が不適切な為、溶接強度のばらつきが大きく、十分な安全率を確保できていないものがある。その為、タイヤ固定時に過大なトルクで締め付けると溶接部が剥がれて、スペアタイヤが脱落する恐れがある。
- ダイハツ、「ハイゼットトラック」・スバルOEM「サンバートラック」の荷台ヒンジピンに不具合があるとしてリコール 14年10月16日～18年2月1日に生産した8158台
低床ダンプ仕様の荷台において、荷台を支持するヒンジピンを固定する構造が不適切な為、ダンプ操作によって固定ボルトが緩むことがある。その為、異音が発生し、そのままの状態で使用を続けると、最悪の場合、当該ヒンジピンが脱落する恐れがある。